北方山草（36）：39-44. March 2019

SAPS に所蔵されている＜鳥山啓寄贈＞標本の特徴

札幌市　高 橋　英 樹

北海道大学総合博物館陸上植物標本庫（国際略称 SAPS）には、＜鳥山啓寄贈＞と印刷されたラベルの植物標本が収蔵されている。この標本ラベルの多くで採集者名は須川長之助（1842–1925）とあり、これが本当だとすればロシアのマキシモヴィッチに送られた標本の重複品ということになり、タイプ標本が混じっている可能性が出てくる。このため＜鳥山啓寄贈＞標本の内容を調べる必要が生じてきた。

しかしこれらの標本 1 セットが別保管されている訳ではなく、それぞれの標本は一般植物標本庫中の該当する種カバー中に配架されている。このため植物ボランティアの日々の配架作業の合間に＜鳥山啓寄贈＞標本を抜き取ってもらい現在約 380 枚分の標本データが集まった。そこでこの機会に＜鳥山啓寄贈＞標本の特徴についてまとめてみた。全体としては 600 枚あるとの見通しがあり、これから確認される標本も多いと思うので標本データベースはもう少し完成度が高まった時期に公開し、最終的な考察もその時にしたいと思う。今回は 1）本標本の SAPS への寄贈の経緯、 2）2 枚貼ってある標本ラベルの特徴、 3）採集年月と採集場所、4）タイプ標本についてまとめた。

1）標本寄贈の経緯

植物学者を網羅的に集めた解説書として定評のある『植物文化人物事典』（大場 2007）を紐解いてみたが、残念ながら鳥山啓の名前はなかった。植物学者という範疇にとどまらない博物学者だったらしい。いささか安直ながらインターネットでの情報によると概略以下のようだった。「鳥山啓（とりやま ひらく）天保 8 年（1837）– 大正 3 年（1914）　博物学者。南方熊楠の恩師であり、「軍艦（軍艦行進曲）」の作詞者。三男の鳥山嶺男は北海道帝国大学で教鞭を執ったことがある。妻の美々代は第 46 代内閣総理大臣片山哲の姉。」（Wikipedia、2018 年 11 月 5 日アクセス）とある。さらに辞世の句として「草に木に虫に鳥にもなりぬべし 十まり四つの元にかへらば」（自分が死んだら元素に分解され、草や木、虫、鳥になるだろうとの意）があり、私自身妙に感じ入ってしまった。三男が北大にいた、とのことであるからその縁で標本が寄贈されたのではないかと想像している。なお、宮部金吾（1860–1951）と鳥山啓との生存期間は重なっているが、両者間での書簡のやりとりは記録されていない（秋月 2010）。

＜ Herbarium of the College of Agriculture, Tohoku Imperial University, Sapporo ＞の表題が印刷されたラベルに＜鳥山啓寄贈＞の文字が追加して印刷されている（押印ではないように見える）。札幌農学校が東北帝国大学農科大学とされたのは 1907 年であり、1918 年に北海道帝国大学が設立されこれに移管された。ただ、一度プリントされたラベルが余ればその後も使用するという事はありそうなことなので、＜鳥山啓寄贈＞